

6年『郡上ビク』

6年生が名人さんから話を聞きました



【郡上ビク作りの名人】益田康矢さん

昨年12月に「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されました。鮎釣りでは、釣った鮎を入れておく「ビク」という竹で編んだ入れ物があります。益田さんは中学校2年生の時に竹に魅了され、お師匠さんについて竹を割る修行をされました。その後、郡上ビクを作るようになり、今ではこの郡上ビクを作るのは、益田さんだけになってしまったそうです。子どもたちは、益田さんの話を聞いたり、神のように薄く竹を切る実演を見た後、自分で竹細工の風車を作ってみました。伝統を、自分の好きなことを、長く守り続けていこうとする益田さんから、多くのことを学ぶことができました。



風車やビクを作る前の竹を切る時に、ぎりぎりまで切ったり、昔の工夫がしてあるビクを作ったりしていて、すごいと思いました。風車を作るだけでも時間がかかったりするのに、康矢さんは郡上ビクを4時間とかで作るからすごいと思いました。郡上ビクを作る人が増えてくれるように、伝えていきたいです。（和田唯瑠）